

# 中山間地 魅力再発見を

## 浜名区「関係人口」意見交わす

中山間地域の振興策を考  
めるのは問題だ」と課題を  
える「まちむらリレーシヨ  
ン市民交流会議」が22日、  
浜松市浜名区貴布祢の浜北  
文化センターで開かれた。  
地域と継続的に関わる人を  
意味する「関係人口」につ  
いて学生や有識者らが意見  
を述べた。

人口減少が進む浜名区引  
佐町の久留女木地区で稲作  
を続ける静岡文化芸術大の  
船戸修一教授（地域社会  
学）のゼミ生は、同地区で  
昨年実施したアンケート結  
果を発表。冒頭、文化政策  
学科3年の植田勝也さんは  
「人が減り空き地が増える  
のは避けられないが、ここ  
に住むのは無理だろうと諦

めるのは問題だ」と課題を  
挙げた。  
アンケートに回答した50  
世帯127人には、地区外  
に転出した子どもが計42人  
いた。植田さんは「彼らは  
地区の祭りの準備には関わ  
らないが、祭りには参加す  
る。若い彼らを地区の担い  
手として準備から協力して  
もらい、新たな地域の枠組  
みをつくるのが可能」と  
して、「関係人口」を生か  
した地域づくりを期待を込  
めた。

関係人口を提唱する島根  
県立大の田中輝美准教授の  
講演もあった。田中准教授  
は、関係人口は地域の魅力  
を再発見し、誇りを持たせ  
てくれるとして「過疎地域  
の住民が失ったやる気を取  
り戻すことに意義がある」  
と指摘した。

会議には約150人の市  
民らが出席。参加者からは  
「地区外に転出した子ども  
に目を向けるのは大事」な  
どの意見が出た。

久留女木地区で行ったアンケ  
ー調査を紹介する植田勝也さん  
（浜松市浜北文化センターで



（荒木正親）